

平成 24 年度 第 1 回理系チャレンジ講座を実施しました

5月23日、第1回理系チャレンジ講座が、本学工学部の池内秀隆准教授によって「身近にあるバリアフリー技術」をテーマに行われました。来学した森高校(31名)と、遠隔受講した大分雄城台・大分鶴崎・安心院(あじむ)・中津南・日田の5校(94名)を合わせて、合計125名の高校生が受講しました。

はじめに、バリアフリーやユニバーサルデザインの思想に基づいて作られた具体的な施設例が紹介されました。ユニバーサルデザインの例として、高さを変えて設置されている公衆電話機、地下鉄の二重扉、自動販売機の大きな押しボタンなどが、バリアフリーの例として、車いす利用者向け駐車場、バスに乗降しやすい歩道の高さ、視覚障害者誘導用ブロックなどが紹介されました。高校生にとって「見たことがある」ものが多くありましたが、新しい技術で作られた、初めて見るものもありました。

次に、一般商品と福祉機器の間にある“共用品”という日本で生まれた考え方が紹介され、多くの受講生が感心しました。この他にも、間違いを防ぐ意味で、アルコール飲料缶のみ点字が刻印されていることを知りました。このように、身体的な特性や障害にかかわらず、多くの人々が利用しやすい製品・施設・サービスが考えられ実用化されていることを受講生は学びました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(96%：「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「授業に意欲的に取り組んだ」(98%)、「大学の先生は真剣に取り組んでいた」(98%)、「授業内容はわかりやすかった」(94%)との高い評価結果がでました。一方、「授業内に興味があつたか」(73%)という結果がでており、今まで気づかなかった技術の存在を知るきっかけになったようです。

受講生の具体的な声として、「他校の生徒と受講でき刺激を受けた」「リアルタイムで大学の授業に参加することがで、バリアフリーのすごさに驚いた」「健常者と身障者の共生の発想から生まれた分野だと分かった」「街の中のバリアフリーを今までと違った視点で見たい」「スライドの文字がもう少し大きいとよかった」など、多くの感想や意見をいただきました。

